

# C-51 ウールジャージのテーラードスーツにおける芯地

——ハ刺しによる縫製と接着芯による縫製の比較——

九州女大家政。藤私洋子 文化女大家政 成瀬信子

目的 ウールジャージのテーラードスーツの製作において、従来のハ刺しによる縫製と、接着芯による接着縫製が、どのような実用性能を異にしているかを比較検討した。

方法 ウールジャージ(両面平編)を表地とし、芯地としてはパンコース、織地接着芯、編地接着芯、両面接着芯による9種、裏地として、キュブラの平織物を用いた。ハ刺しおよび芯地を接着した方法によるテーラードスーツの半身嚔を作製し、Scheffeの一对比較法により、①布味のそこのなわかれ方 ②衿のおさまり具合 ③見衣目の硬さ、④全体の直るさについて官能検査を行なった。また嚔位法により触覚を加味した全体の直るさを調べた。一方各種物性を測定し、官能量と物理量との関連を検討した。

結果 1. 視覚のみによる判定においてはハ刺しによる縫製よりも、接着縫製の方がよい。2. 触覚による判定においてはハ刺しが最もよく、ついで両面接着縫製がよい。不織布接着芯を用いる場合は、ニット専用の接着芯以外は好ましくない。3. 視覚による判定と、触覚を加味した判定は一致しない。4. 官能量間の相関性は全体の直るさと衿のおさまり具合および見衣目の硬さとの間、また、衿のおさまり具合と見衣目の硬さの間、それぞれ子の相関性が認められた。5. 官能量と物性の相関性は、見衣目の硬さと平面重、衿のおさまり具合と衿の折返し高さとの間に正の相関性が認められた以外は、厚さ、平面重、見衣目の比重、含気率、防しゅ率、屈曲剛性率、圧縮弾性回復率、衿の折返し高さなどの物性と官能量との相関性は認められなかった。